あんずの木

平成 30 年８月号　　NO.27

“当たり前”だったことが“当たり前”ではなくなっている最近の気候。台風が西からではなく東からやって来るなんて…。気温 30 度が涼しく感じられてしまうなんて…。何かを見直さなくちゃいけない気配が、ひたひたと近づいてきています。とはいえ、８月を８月らしく満喫していきたいですね。夏ならではの風物詩を、ぜひ、ご家族で一緒に味わってみてください。

あんずは、お盆の５日間お休みをいただきますが、その他は、児童・放デイ共に、通常通りの支援となります。「こんなことがあった」「あんな姿があった」「これに挑戦してみようと思う」「どうしていったらよいのだろう？」と、いつもの場所、いつもの時間でお話してください。

春夏秋冬、ひとつひとつの季節が、子ども達やご家族に育ちの舞台を作ってくれています。

今は“夏”と仲良く、「暑い～」と嘆きながら、素敵なフォトグラフを残していきましょう！

―８月・９月の予定―

８月 13 日（月）～17 日（金）夏休み（児童・放デイ共にお休みです）
９月 11 日（火）地域連携日（児童・放デイ共にお休みです）
９月 13 日（木）ＳＴ（児童）
９月 27 日（木）ドクターＮの医療相談（14～16 時）

＝お知らせ＝

≪あんずの夏休みについて≫　(児童・放デイ共通)

8月 13 日（月）～8月 17 日（金）まで、さぽねっとステーション（あんず＆日向）は夏休みをいただきます。お休み中、連絡が必要な場合は、**あんず携帯 080-8703-9655** までお願いします。８月その他の日は通常の支援となります。日向の相談支援事業も同様です。

≪ドクターＮの医療相談≫（児童・放デイ共通）

９月 27 日（木）に、埼玉医科大学総合医療センター小児科の奈倉道明先生による個別の医療相談を行います。まだ空きがありますので、ご希望される方はお申し出ください。

秋は、少し先のことを考え始める時期です。この機会も有意義に利用してください。

≪レクチャー ＯＦ あんず≫（児童・放デイ共通）※詳細は後日お知らせします。

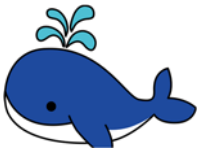
10 月 24 日（水）10：00～11：30 の予定で、主に放デイの保護者の方を対象に講演会を行います。講師は、昨年に引き続き、さぽねっとステーションのオブザーバー、立教大学の大石幸二先生です。この日は、『親子のスタンスを変えていくのは、いつから？』(仮題)というテーマでお話していただく予定です。

そして、翌日の **10 月 25 日（木）10：15～11：45** は、就学前の児童の保護者を対象に講演会を行います。講師は、生活支援センター日向の臨床心理士、武蔵野短期大学の成瀬雄一先生です。『乳幼児期に大切にしたいこと』(仮題)というテーマでお話していただきます。

≪さぽねっとまつり について≫

　10月20日(土)に予定しております“さぽねっとまつり”についてお知らせします。
ハンドメイドグッズを出品して下さる方を募集します！
「出品したい！」「どんなものがいいの？」「どのくらい？」などなど、ご興味のある方は、
池田まで声をかけてください。よろしくお願いします!!

くじらクラスの7月あれこれ



　「言葉はイメージを伝えるためのもの！」と、東京福祉大学の立松先生の言葉!!
気持ちを伝えるためにも、イメージを浮かべることができるのが大切！
注目すること⇒たどること⇒見比べること⇒見渡すこと　の土台作りが大切だそうです。
　さて、くじらクラスでは、“知っている絵本増加作戦”第２弾！『月曜日 何食べる』
知っているものが増えるからこそ、興味も湧き、注目できるモノも増えていきます。運動課題でのグーパーや、遊びの中での迷路は、道を辿る(たどる)活動です。「どっち！」と、事あるごとに子ども達に聞いているのは、見比べる活動。
　こうやって見回してみると、日常の中でたくさんの経験を重ねています。いつもと変わらない日々に思われがちですが、何を目的に過ごしているかを、ちょっと意識することで、大切な力を育むために過ごしている“あんず”なんだと、改めて確かめられると思います。

ペンギンクラスの7月あれこれ

　プールの日は、朝からクラスのカーテンを閉めているのですが、「あれ？」「いつもとちがうよ」「気になるなあ」と、気付いてくれる子ども達。のぞいてみてしっかり確認！プールがない日は、「な～んだ」とでも言いたげな雰囲気を感じさせ、朝の支度に向かう子ども達。しか～し、プールの日は、カーテンを閉めていても、プールの水色がカーテンに透けてユラユラ…。プールが好きな子は、何度も確認!!ホワイトボードの予定を見てまた確認!!朝の会でも何度も目線が!!プールの魅力に負けないように担任はがんばります！
　好きなことがいくつもあることはステキなこと。世界が広がります。そこに向かう力や、「こっちも好きだから」と切り替えられる、心のゆとりにもなりますね。
ペンギンクラスで、ひとつでも“好き！”“楽しい！”と思えることを
増やしていきたいと思っています。

　そして、７月から新しいお友達も仲間入りしました。
ドキドキしている二人を見ていると、先輩メンバーがあんずに来た頃の顔を
思い出し、一人一人一日一日の成長が改めて感じられます。ペンギンクラスからスタートした子ども達も、３カ月で立派な先輩の顔になっています。後に続きましょう！
　子ども達の元気と笑顔にパワーをもらいながら、時々休んで、
暑い夏を乗り越えていきましょう！

放デイのひとり言

　夏休みになりましたね。皆様いかがお過ごしですか？
７月は記録的な猛暑が続き、あんずに着いた子ども達のおでこには、玉のような汗が…笑顔の中に光っていました。そんな日々のひとコマ『作って遊ぼう』の活動がありました。
　メインは“風車作り”です。紙皿に絵を描いて、まわりに切り込みを入れ、斜めに折ると羽根になります。ハサミの入れ方や羽根の折り方に少しむずかしいところはありますが、それぞれの取り組み方で行いました。年上の子が年下の子を手伝ってあげる微笑ましい場面もありました。また、絵もカラフルで、集中して描いている姿に、積み重ねることの大切さと成長を感じました。そして、ホールや廊下で、作った風車をクルクルと回し、友達と一緒に存分に楽しんでいました。また、折り紙でパックンチョや“だまし船”なども一緒に折って遊びました。
　まだまだ暑い日が続きそうです。活動の合間に、水分補給などを行い、体調に気を付けて過ごしていきたいと思います。

保育所等訪問支援の７月あれこれ

　７月は、プール遊びも日常になり、そして夏祭りがあったり、お泊まり会があったりと、幼稚園、保育所それぞれで夏のイベントが盛りだくさん。暑さなんか吹き飛んで…いやいや水分補給の欠かせない今年の夏です。先生方は目を配り、気を配り、十分に配慮されていました。
だから子ども達は全力で過ごせているんですよね。真っ赤な顔の先生方に脱帽です。
　お友達の中で楽しく過ごしている姿を、あえてズームアップしてみると、小さなことかもしれませんが、その子にとっては少し大きめの不都合さが隠れていることがあります。
　「待てよ…」と、あんずに戻ってから、自分でも同じことをやってみたりするのですが、「あ！あの子にはここの部分が難しいかな」と改めて気づくことがあります。見落としてしまうような、流れの中でのちょっとした動作や手の動きなのですが。クラスの先生方とそこが見つけられ共有できると、子どもの過ごしやすさも格段に向上します。
　小さな配慮を次につなげていきたいと思います。

こんな取り組みを始めました。

　狭山市内にある３つの児童発達支援（市立青い実学園・子どもの家ひだまり・児童発達支援センターあんず）で、事業所連絡会を月１回開催しています。それぞれの施設の特色を理解しあい、支援内容等について情報交換をしています。
　同じ地域内での支援の風通しを良くし、つながりを深め、今後その輪を広げていきたいと思っています。

つながりリレーコラム

第 14 回目は、日高市障がい者相談支援センターの　大野　真さんです。

私は日高市で障がいのある方たちの相談を受け、一緒に考え、協力していく仕事をしています。相談員になって今年で６年になりますが、それまでは障がいのある方が通所する施設の支援員を１０年間していました。授産施設と呼ばれていた時代から、施設を利用する仲間たちと、毎日一緒に仕事をして、汗を流して、同じ時間を共有していました。施設での「つながり」はそうした仲間たちの日々の積み重ねにありました。

相談員になって状況が大きく変わり、支援や協力で関わる人たちが広がりました。相談員になった頃は、「支援者のみんなとつながってチームアプローチを！そのためには、相談員になったのだから、この人のために何とか自分が頑張らないと！」と、すごく気負ったところがあったと思います。それが、少しずつ私の中で、これって自分が頑張っているから？というより、障がいのある人や家族の人柄や価値観、それまでの生活の積み重ねや歴史に、共感してつながっているのではないかと思うように変わっていきました。

私が支援している方で、85 歳の父親と 54 歳の知的障がいの息子さんの親子がいます。身寄りもなく、高齢の父親との二人だけの生活もそろそろ限界という見方が、支援者の大半でした。息子さんは、定期的に短期入所を利用し、父親と離れて暮らす準備も整いつつあります。父親は物静かな方で、あまり自分から要望や困っていることなど多くを語りませんが、時々「この家でいつまでも二人で暮らしていきたい」と、ポツリとこぼし、支援者も聞いていました。「今後の準備も大切だけど、今の親子の思いは？そのために支援者は何をするべきなのか？」をもう一度確認しあうための支援者会議を開きました。そして、専門職だけだった集まりに民生委員や近所の協力者にも参加してもらいました。

近所の方からは、「元気な頃は、みんなここのお父さんに助けてもらったんだよ。近所で困っていると聞けば、すぐに駆け付けてくれて。怪我をしてから様子が分からず、みんな心配していた。今後は、自分たちが協力する番だと思っている」と教えてくれました。この会議で、緊急時の備えを進めながら、地域と専門職が協力して、親子の願いを支えていくことを再確認しあうことができました。

こうしたひとつひとつの経験が「つながり」という私の考え方にも深く影響し、じつは私自身も障がいのある人との出会いによって「つながり」を持たせてもらっていると思うようになりました。

新しい相談が増えると、忙しくなり、目先のことにとらわれがちになりますが、少し先を見て「この相談(出会い)が、また新しいつながりのスタートになる」と考えると、気持ちがずいぶん違います。「つながり」が多様なように、「つながりの考え方」もそれぞれだと思います。できれば、よい考え方、捉え方をして、自分にとってもエネルギーや財産になるようにしたいと思っています。

☆お　礼☆

ツリーハウスやオモチャのダンプカー、乗り物の絵本等をいただきました。大切に使わせていただきます。

お心遣い、いつもいつもありがとうございます。